

学校基本調査データに基づく新規学卒者の 卒業・修了時進路決定状況の時系列推移 (大学学部、大学院修士課程・博士課程)

2025年2月21日 ver.1.0

はじめに／トピックス

■はじめに

本データ集は、文部科学省「学校基本調査」のうち「卒業後の状況」（進学・就職に関するデータ）を再集計し、可視化したものです。学校基本調査は毎年度公開されていますが、今回は2003・2008・2013・2018・2023年度のデータを参照しています。集計工数等の関係から、集計着手当時の直近公開データであった2023年度データを起点に、5年間隔で20年間遡りました。奇しくもITバブル崩壊直後、リーマン・ショック前後、そしてコロナ禍前後のデータを参照することになりました。

学校基本調査の「卒業後の状況」データは、新規学卒者の卒業直後の進路を実数把握できる貴重な統計データです。ただし時系列推移の公表例は限られています。年次集計も単表の公開が主であり、データベース化はほとんどされていません。このデータを大まかですが可視的に把握できるようにしてみました。皆様の調査研究、採用・学生支援実務、雇用関連施策立案、新規サービス開発等の足掛かりになれば幸いです。また、卒業後の進路を考えている学生の皆様に、就職・進学環境を俯瞰的に知るためのエビデンスとして活用していただくと幸いです。

本データ集には、当方集計データの一部を抜粋しました。留意事項を承知いただける場合は、データセットも提供いたします。データ集に掲載した内容の一部を抜粋したコラムも近々発信しますので、ぜひそちらもご覧ください。

株式会社リクルート
就職みらい研究所
研究員 清水山隆洋

■調査データ引用に関するお願い

どなたでもご利用ください。次項の留意点をお読みのうえ、【リクルート就職みらい研究所（2025）、「学校基本調査データに基づく新規学卒者の卒業・修了時進路決定状況の時系列推移（大学学部、大学院修士課程・博士課程）」】と明記ねがいます。

■お問い合わせ：<https://rec.fofa.jp/rcasmk/a.p/115>

■トピックス

- **学部**の卒業生数は男女差が縮小してきたが、修士課程・博士課程の修了者数は男女差が大きい。学部卒業生の就職者数は男女ほぼ同数になってきている。
- 大学から修士への進学者率はほぼ横ばいで推移。学部から修士課程への進学者率には男女差がある（男性が女性より7～8pt.高い）。修士から博士への進学者率は男女とも2003年度比で約5pt.低下。
- **学部**の就職者数を**産業別**に見ると、20年の変化（2023年度就職者数の2003年度比増減）としては、「情報通信業」「学術研究、専門・技術サービス業」「医療、福祉」への就職者増加が著しい。コロナ禍前後の変化（2023年度就職者数の2018年度比増減）としては、男性では社会科学系卒業生の「卸売業、小売業」「金融業、保険業」、工学系卒業生の「製造業」から、「情報通信業」への就職先産業の変化が見られる。女性では、人文科学系卒業生の「卸売業、小売業」「金融業、保険業」、社会科学系卒業生の「金融業、保険業」から、「情報通信業」への就職先産業の変化が見られる。
- **修士**の就職者数を**産業別**に見ると、20年の変化としては「情報通信業」「学術研究、専門・技術サービス業」「製造業」の就職者数が大きく増加しているが、「製造業」に限っては、コロナ禍前後では減少に転じている。コロナ禍前後の「製造業」への就職者数の減少は、工学系男性の「製造業」から「情報通信業」への就職先の変化によるところが大きい。
- **修士**の就職者数を**職業別**に見ると、「専門的・技術的職業従事者（「専門・技術」）」の就職者数が特に増加している。ただし「専門・技術」のなかでも「（専門・技術）情報処理・通信技術者」は大きく増加しているが、「（専門・技術）教員」は大きく減少している。
- **博士**では**保健系と保健系以外**（グラフでは「保健除く全専攻」と表記）の修了者数や就職率の差異が大きい。保健系以外の就職者率は、保健系のそれに比べてかなり低い（2023年度：18.0pt.差）。
- **保健系以外の博士**の就職者数を**職業別**にみると、「（専門・技術）研究者」（大学等教育機関の教員以外の、公共・民間等での研究職）の就職者数が増加。僅かだが「（専門・技術）大学・短大・高専教員」の就職者数が減少。

集計概要／留意点

■集計概要

- e-statに公表されている学校基本調査「卒業後の状況」のうち「学部」、「修士」、「博士」卒業者についての集計表（以下、「参照元」）について、2003・2008・2013・2018・2023年度の卒業生数、進学者数、就職者数の実数値を参照した。
 - 就職者数については産業（大分類）別、職種（大分類・一部中分類・小分類）別の就職者数内訳も参照した。
 - 本データ集の属性表記うち、卒業・修了、学校の区分、性別の表記は、NISTEP「科学技術指標」の表記を踏襲した。その他の表記（産業、職業、関係学科・専攻分野等）は、原則として2023年度学校基本調査の表記を踏襲した。
 - データ集における「女性」の集計値は、参照元の「男女計」と「男」の差分として算出した（学校基本調査の調査票の仕様から算出可能と判断）。
 - 集計値の「就職者」の定義は下記の通り。定義は学校基本調査に則っている。
 - ↳(a)自営業主等、無期雇用労働者、雇用契約期間が1年以上かつフルタイム勤務相当の有期雇用労働者
 - ↳進学者のうち就職している（上記(a)に該当する）者
 - 就職者の数値は年度単表のうち「産業別 就職者数」及び「職業別 就職者数」の掲載値を参照した。
 - 産業別就職者数及び職業別就職者数の集計項目は、原則として2023年度の区分・表記に、それ以前の年度の区分・表記を突合せた。詳細は該当グラフ下部に記載した（注）を参照のこと。
- ※学校基本調査の詳細仕様については、下記を参照されたい。
- [e-stat「学校基本調査」](#)
[文部科学省「学校基本調査」](#)
- 比率を算出している箇所においては、四捨五入等によって既存の公表値と若干のずれが生じる場合がある。

■留意点（データを引用される前に、必ずお読みください）

- ご利用の際はぜひ、下記記載の問い合わせURLにご一報ください。お知らせいただいた活用状況を、今後の調査研究活動の参考にいたします。掲載記事・論文・報告書等の巻号やURL等をお知らせください。非公開資料に利用される場合は大まかな用途をお聞かせください。
- 集計データセットも提供します。ご希望の際は下記記載の問い合わせURLにご一報ください。提供可否は弊所にて判断する旨、あらかじめご了承ください。
- 本データ集の集計値は、第三者確認を実施する等細心の注意を払っておりますが、参照値・算出値が不正確であったことから生じたいかなる損害に関しても、弊所並びに弊社は責任を負いません。
- オープンデータ活用推進のため、誤参照・誤集計箇所がありましたらぜひ、下記記載の問い合わせURLにご一報ください。
- 本データ集は公開後、適宜修正・追記をする場合があります。表紙のバージョン及び最終頁の更新日、変更・修正箇所等をご確認ください。

■お問い合わせ：<https://rec.fofa.jp/rcasmk/a.p/115>

目次（★印はトピックス記載項目に関連するデータ）

1. 新規学卒者の卒業時進路決定状況の推移（大学学部、大学院修士課程・博士課程）・・・P5～8
 - 1.1. 卒業・修了者数 ★
 - 1.2. 就職者数・就職者率 ★
 - 1.3. 進学者数・進学者率 ★

2. 学部卒業者の卒業時進路決定状況の推移・・・P9～14
 - 2.1. 産業別2023年度就職者数、2003年度比増減 ★
 - 2.2. 産業別2023年度就職者数、2018年度比増減 ★
 - 2.3. 産業別2023年度就職者数、2018年度比増減（関係学科の内訳） ★
 - 2.4. 職業別2023年度就職者数、2003年度比増減
 - 2.5. 職業別2023年度就職者数、2018年度比増減
 - 2.6. 職業別2023年度就職者数、2018年度比増減（関係学科の内訳）

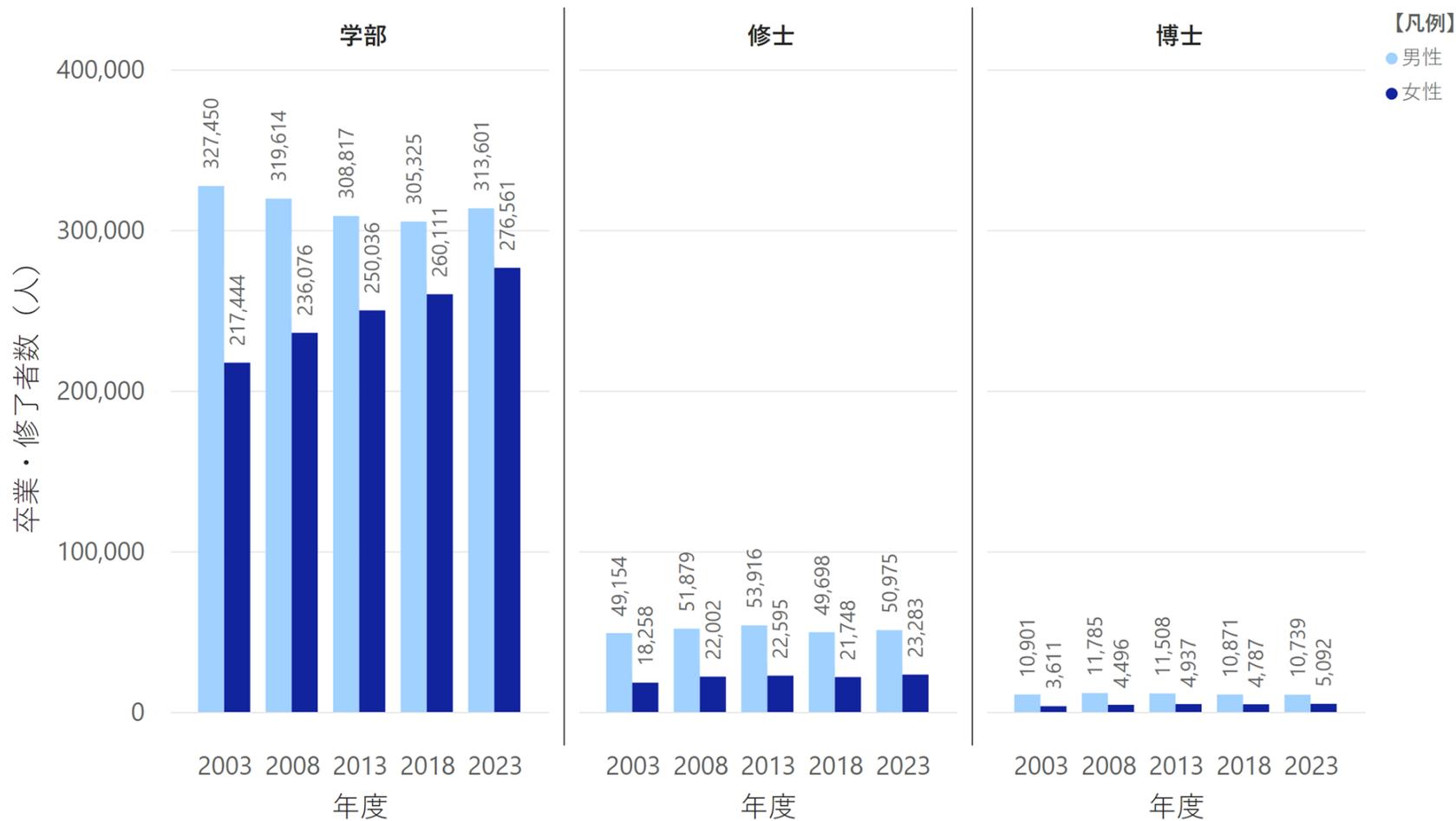
3. 修士課程修了者の修了時進路決定状況の推移・・・P15～19
 - 3.1. 産業別2023年度就職者数、2003年度比増減 ★
 - 3.2. 産業別2023年度就職者数、2018年度比増減 ★
 - 3.3. 産業別2023年度就職者数、2018年度比増減（専攻分野の内訳）
 - 3.4. 職業別2023年度就職者数、2003年度比増減 ★
 - 3.5. 職業別2023年度就職者数、2018年度比増減 ★

4. 博士課程修了者の修了時進路決定状況の推移・・・P20～26
 - 4.1. 修了者数（専攻分野「保健」、及び、「保健除く全専攻」） ★
 - 4.2. 就職者数・就職者率（専攻分野「保健」、及び、「保健除く全専攻」） ★
 - 4.3. 産業別2023年度就職者数、2003年度及び2018年度比増（男女計、専攻分野「保健」）
 - 4.4. 産業別2023年度就職者数、2003年度及び2018年度比増（男女計、専攻分野「保健除く全専攻」）
 - 4.5. 職業別2023年度就職者数、2003年度及び2018年度比増（男女計、専攻分野「保健」）
 - 4.6. 職業別2023年度就職者数、2003年度及び2018年度比増（男女計、専攻分野「保健除く全専攻」） ★
 - 4.7. 博士卒業者に占める主要職業への就職者の比率、及び、ポストドクターの比率（男女計、専攻分野「保健除く全専攻」）

1. 新規学卒者の卒業時進路決定状況の推移（大学学部、大学院修士課程・博士課程）

1.1. 卒業・修了者数

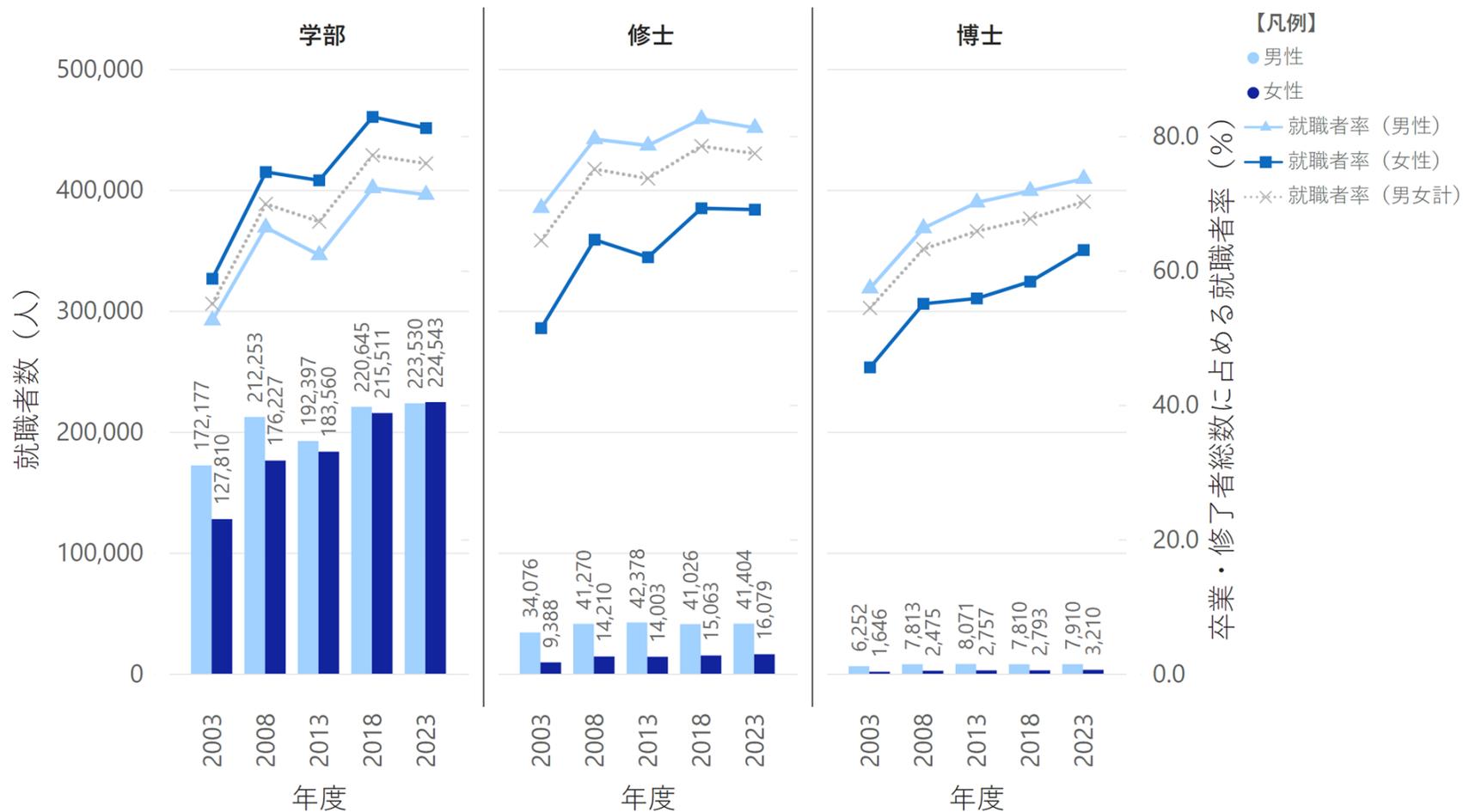
学部の卒業生数は男性が横ばいもしくはやや減少傾向。女性は増加傾向。女性の卒業生数が増えたことで、2023年度の卒業生数の男女比は拮抗しつつある。修士課程・博士課程の修了生数は男性が横ばい。女性は緩やかに増加傾向。男女比は依然として差があり、2023年度の卒業生数での男女比はおよそ2:1である。



1. 新規学卒者の卒業時進路決定状況の推移（大学学部、大学院修士課程・博士課程）

1.2. 就職者数・就職者率

学部卒業者の2023年度就職者数（「全産業計」）は2003年度比で男性約5.1万人、女性約9.7万人、男女計で約14.8万人増加。
 学部、修士課程、博士課程とも就職者率は上昇傾向ではあるが、博士課程の就職者率は学部・修士に比べて相対的に低い。 ※次ページに就職者率の数値表を掲載



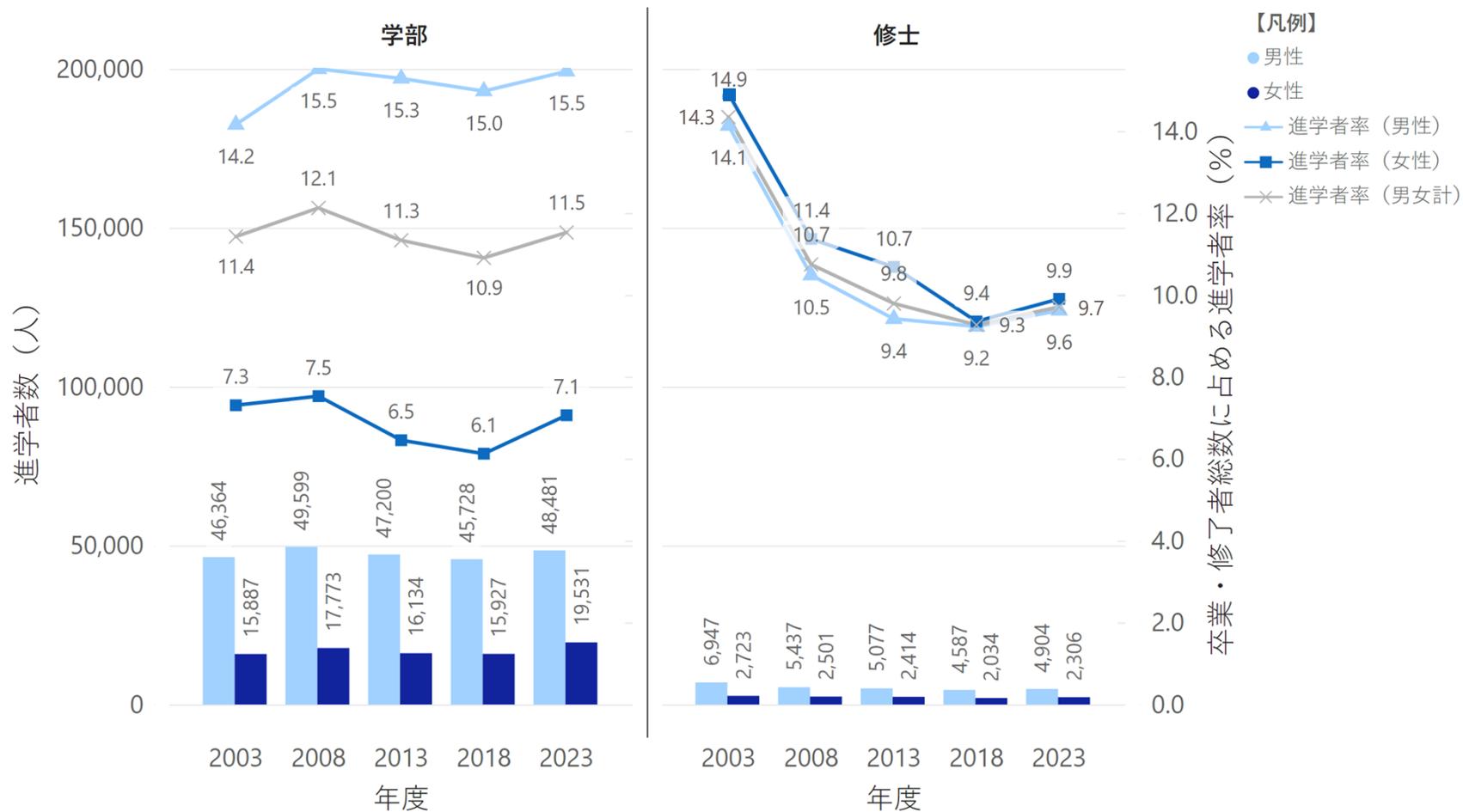
※前頁からのつづき
就職者率の数値表（単位：％）

区分	学部			修士			博士		
	就職者率（男性）	就職者率（女性）	就職者率（男女計）	就職者率（男性）	就職者率（女性）	就職者率（男女計）	就職者率（男性）	就職者率（女性）	就職者率（男女計）
2003	52.6	58.8	55.1	69.3	51.4	64.5	57.4	45.6	54.4
2008	66.4	74.6	69.9	79.6	64.6	75.1	66.3	55.0	63.2
2013	62.3	73.4	67.3	78.6	62.0	73.7	70.1	55.8	65.8
2018	72.3	82.9	77.1	82.6	69.3	78.5	71.8	58.3	67.7
2023	71.3	81.2	75.9	81.2	69.1	77.4	73.7	63.0	70.2

1. 新規学卒者の卒業時進路決定状況の推移（大学学部、大学院修士課程・博士課程）

1.3. 進学者数・進学者率

学部から修士課程への進学者数は男女とも微増しているが、進学者率の男女差は20年間（2003年度～2023年度、5年度ごと推移）ほぼ同じ（男性が女性より7～8pt.高い）。修士課程から博士課程への進学者数が男女とも減少。進学者率も低下しており、2023年の進学者率は2003年比で約5pt.減少している。

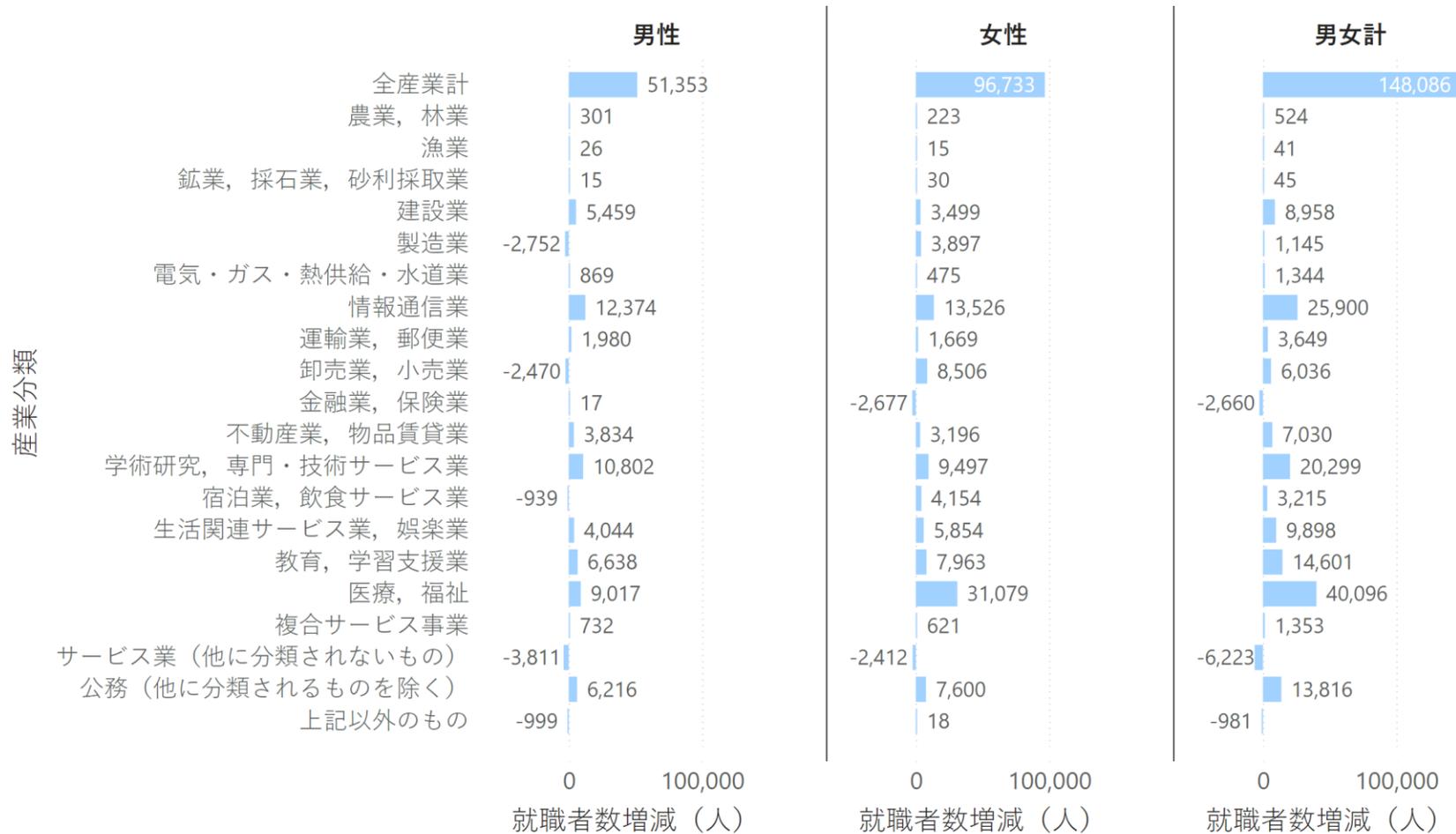


2. 学部卒業者の卒業時進路決定状況の推移

2.1. 産業別2023年度就職者数、2003年度比増減

2023年度の就職者数（「全産業計」）は2003年度比で男性約5.1万人、女性約9.7万人、男女計で約14.8万人増加(P6参照)。

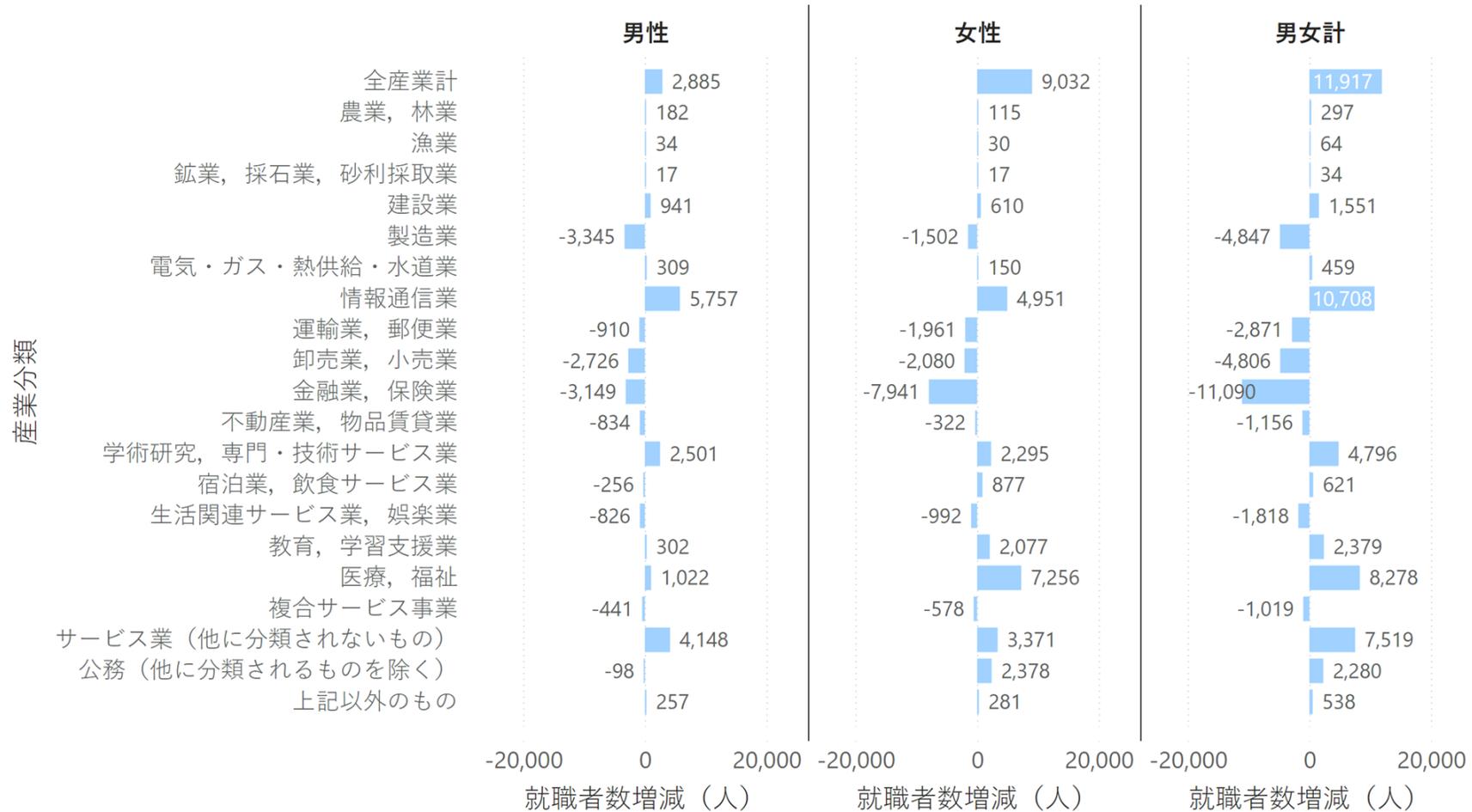
男性では「情報通信業」「学術研究、専門・技術サービス業」への就職者数が特に増加、女性では「医療、福祉」「情報通信業」への就職者数が特に増加。



2. 学部卒業者の卒業時進路決定状況の推移

2.2. 産業別2023年度就職者数、2018年度比増減

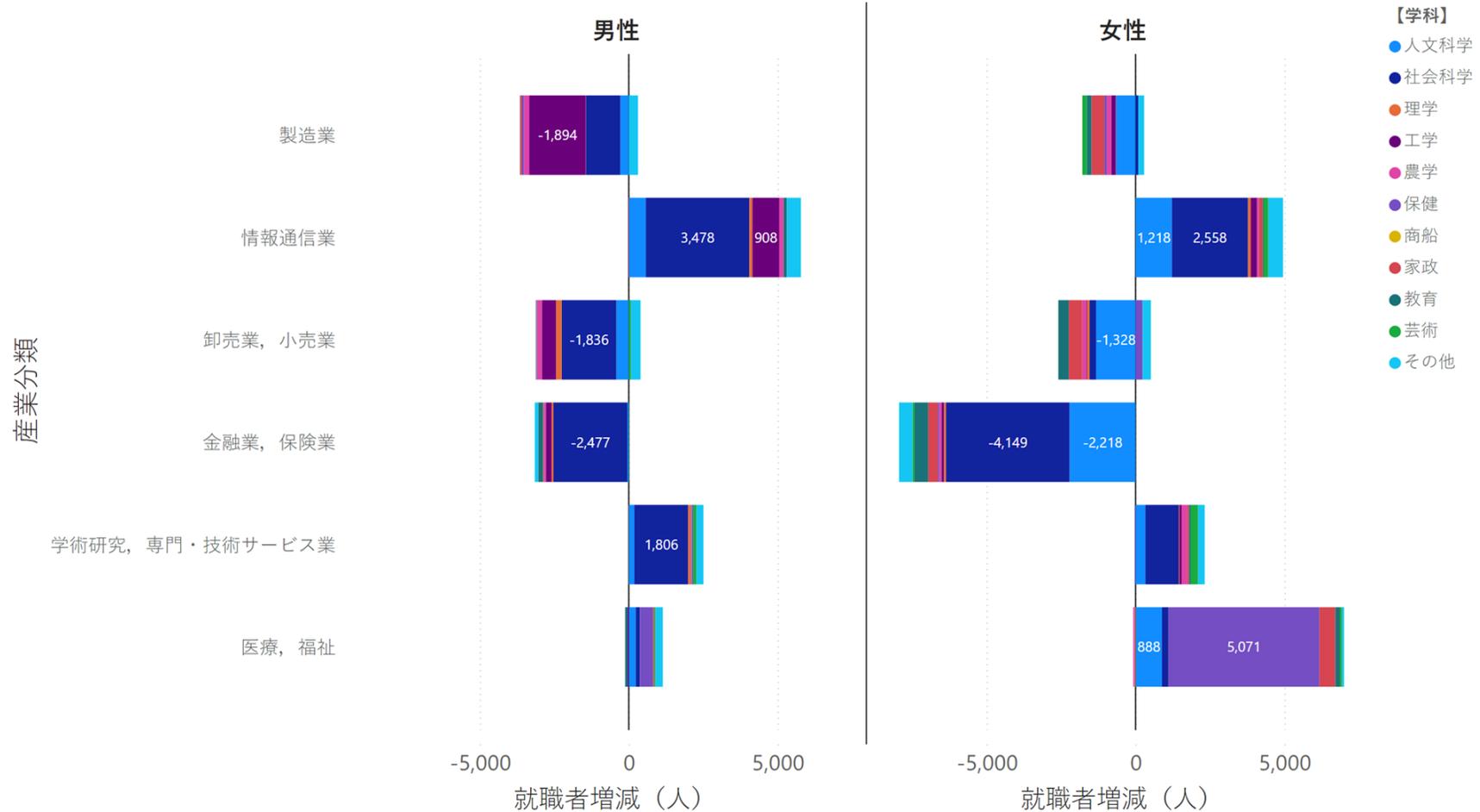
2023年度の就職者数は2018年度比で男性約0.3万人、女性約0.9万人、男女計で約1.2万人増加。2003年度比より増加幅は小さい。男性では「製造業」「金融業、保険業」への就職者数が減少し、「情報通信業」への就職者数が増加。女性では「金融業、保険業」「卸売業、小売業」が減少し「医療、福祉」「情報通信業」が増加。



2. 学部卒業者の卒業時進路決定状況の推移

2.3. 産業別2023年度就職者数、2018年度比増減（関係学科の内訳）

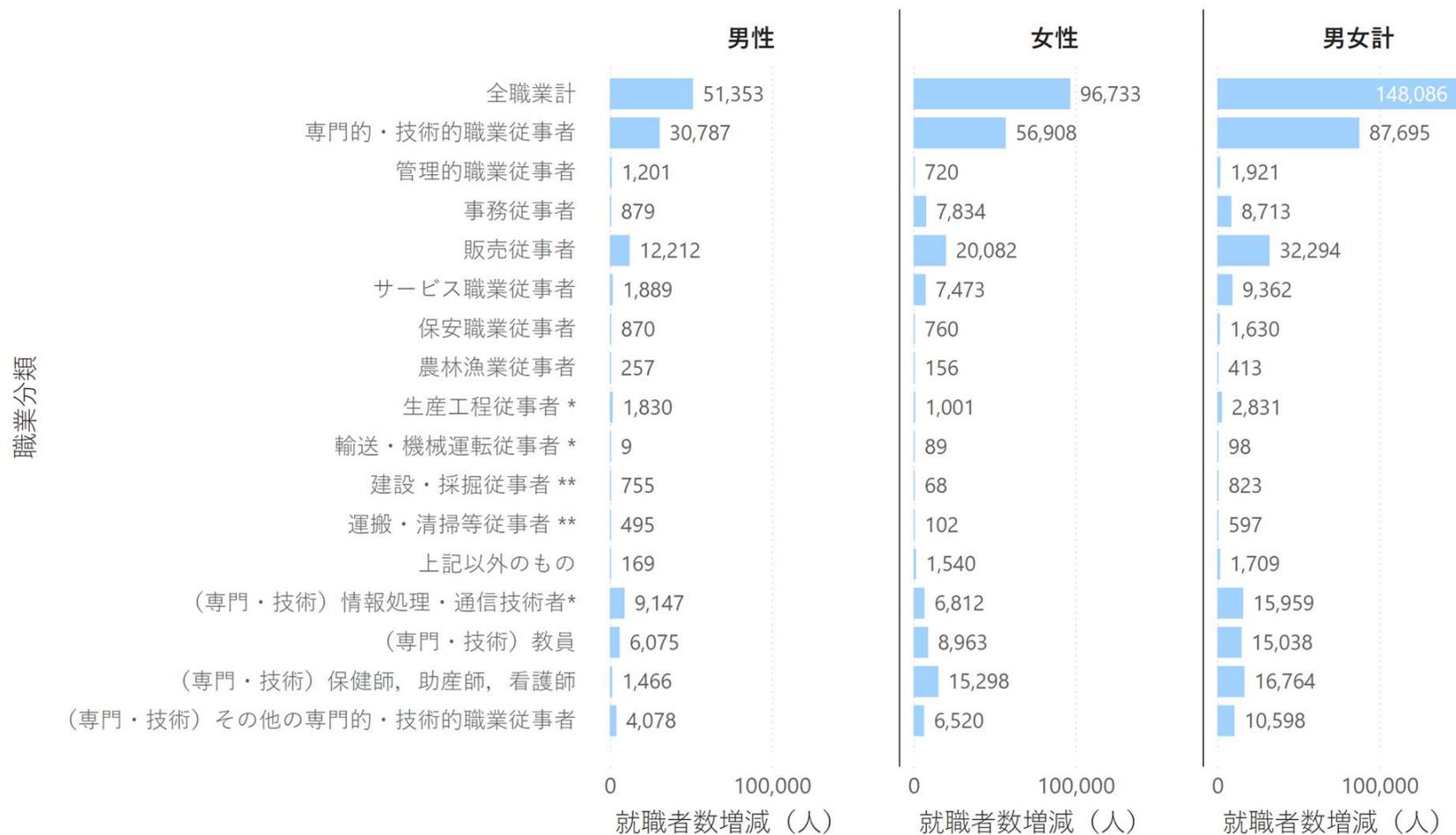
男性の就職者数は社会科学系学生における「金融業、保険業」「卸売業、小売業」の減少と「情報通信業」「学術研究、専門・技術サービス業」の増加が目立つ。
 女性の就職者数は社会科学系学生における「金融業、保険業」の減少と「情報通信業」の増加が目立つほか、保健系学生の「医療、福祉」の増加が目立つ。



2. 学部卒業者の卒業時進路決定状況の推移

2.4. 職業別2023年度就職者数、2003年度比増減

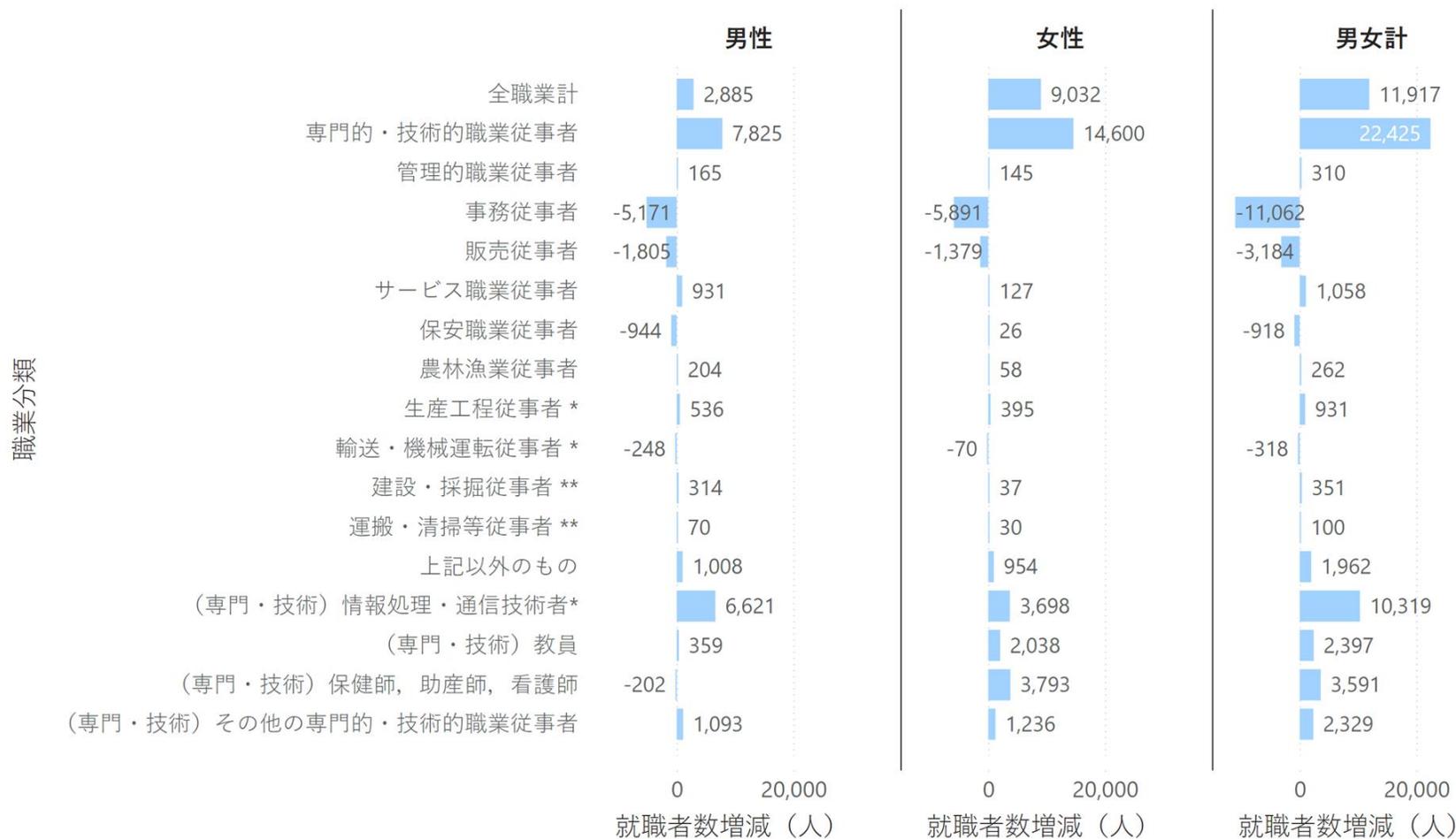
男性・女性いずれも、「専門的・技術的職業従事者（以下、「専門・技術」）」の就職者数が最も増加。
女性では「販売従事者」「サービス職業従事者」の就職者数も大きく増加。



注1) *2023年度データの職業分類名称に統一、もしくは、2023年度データの職業分類に合わせて集計を変更 **2023年度データに突合できないため比較対象年度の就職者数を0とした増減を算出

2.5. 職業別2023年度就職者数、2018年度比増減

2003年度比と同じく、男性・女性いずれも「専門・技術」の就職者数が最も増加。そのなかでも男性・女性いずれも「情報処理・通信技術者」の増加が目立つ。女性では「保健師、助産師、看護師」も増加している。2003年度比では増加していた「事務従事者」「販売従事者」が男性・女性いずれも減少に転じている。

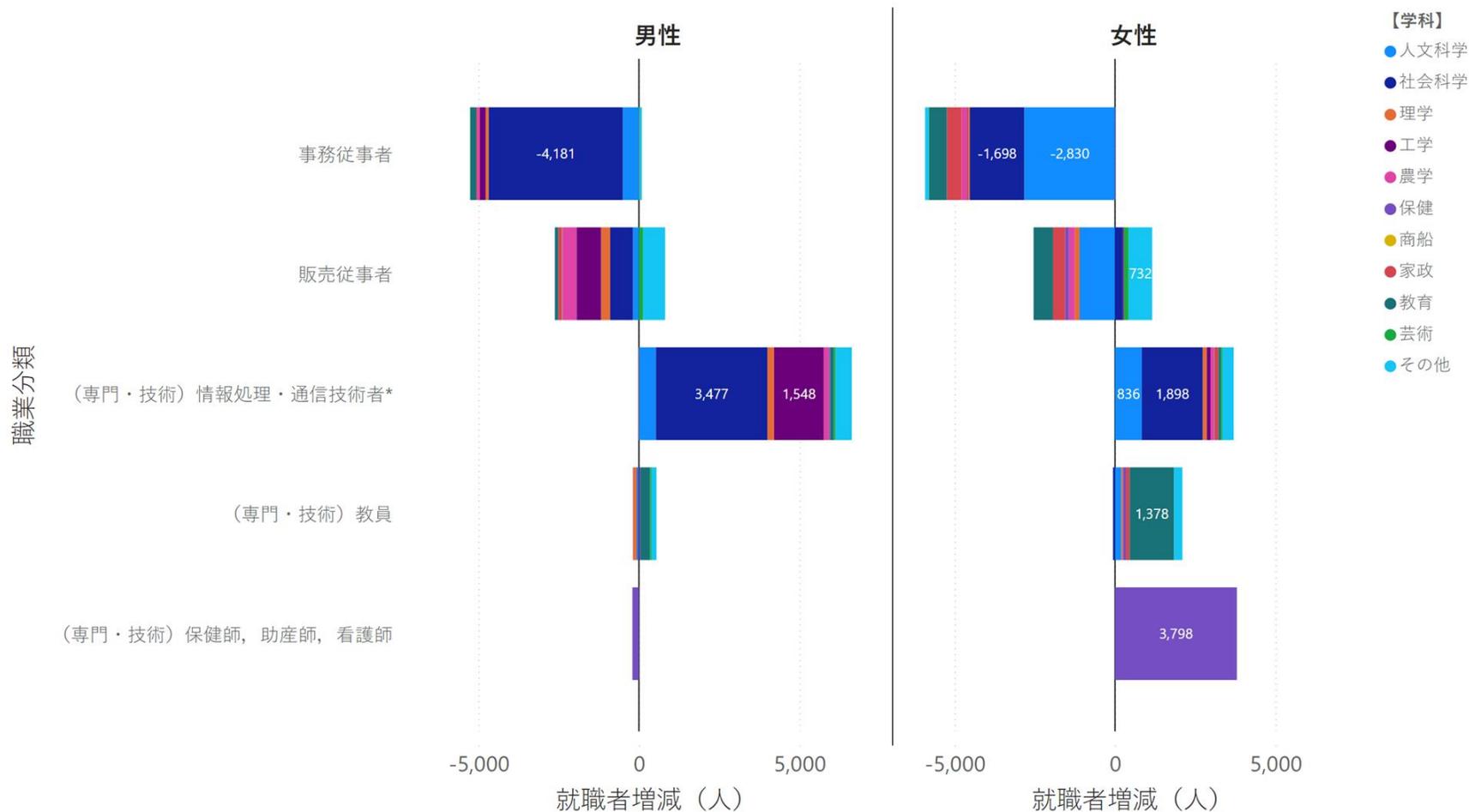


注1) *2023年度データの職業分類名称に統一、もしくは、2023年度データの職業分類に合わせて集計を変更 **2023年度データに突合できないため比較対象年度の就職者数を0とした増減を算出

2. 学部卒業者の卒業時進路決定状況の推移

2.6. 職業別2023年度就職者数、2018年度比増減（関係学科の内訳）

人文科学・社会科学系学生の「事務従事者」の就職者数の減少と、「（専門・技術）情報処理・通信技術者」の就職者数の増加が目立つ。
女性では保健系学生の「（専門・技術）保健師、助産師、看護師」の就職者数増加、教育系学生の「（専門・技術）教員」の就職者数増加も目立つ。

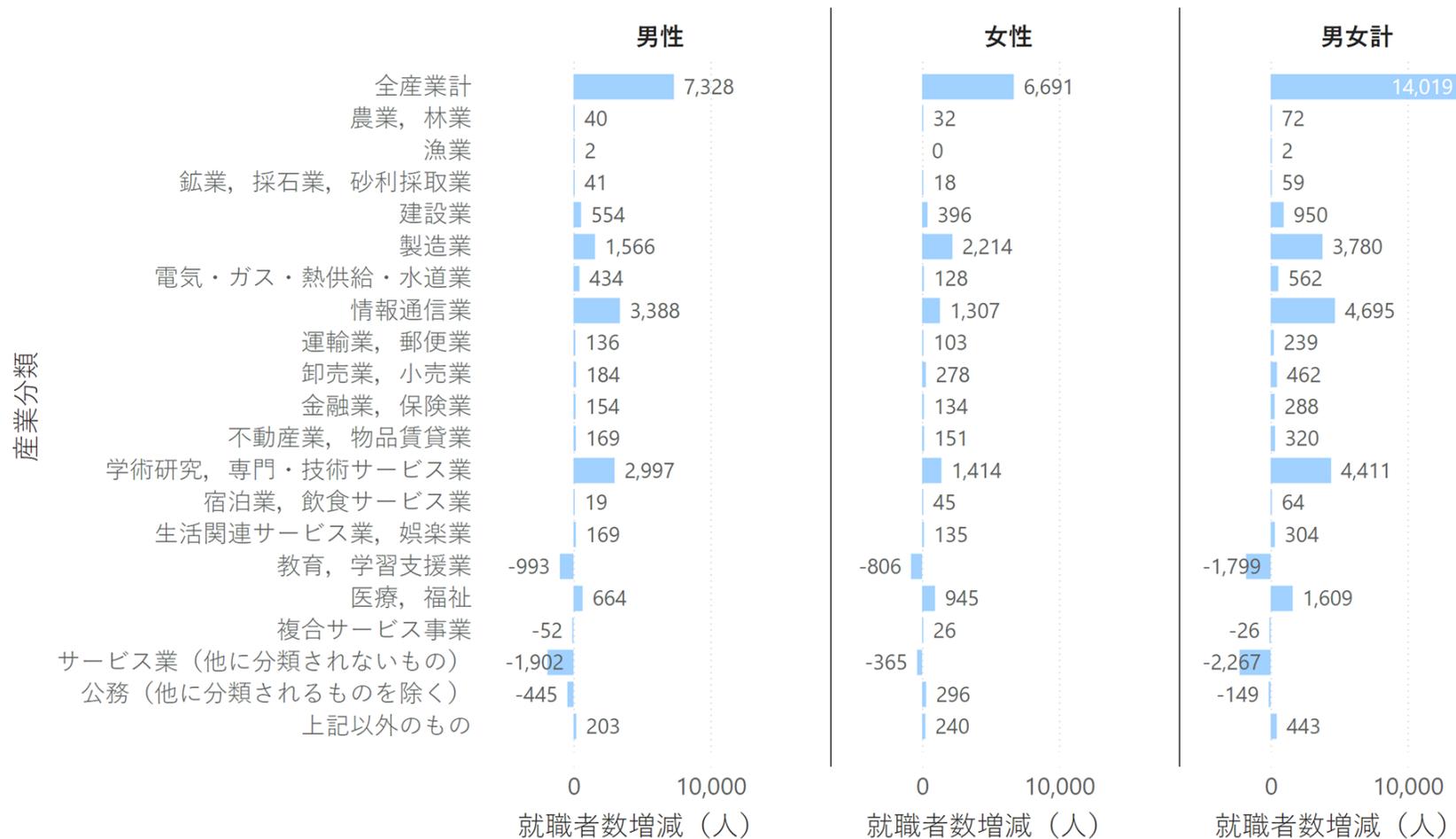


注1) *2023年度データの職業分類名称に統一、もしくは、2023年度データの職業分類に合わせて集計を変更

3. 修士課程修了者の修了時進路決定状況の推移

3.1. 産業別2023年度就職者数、2003年度比増減

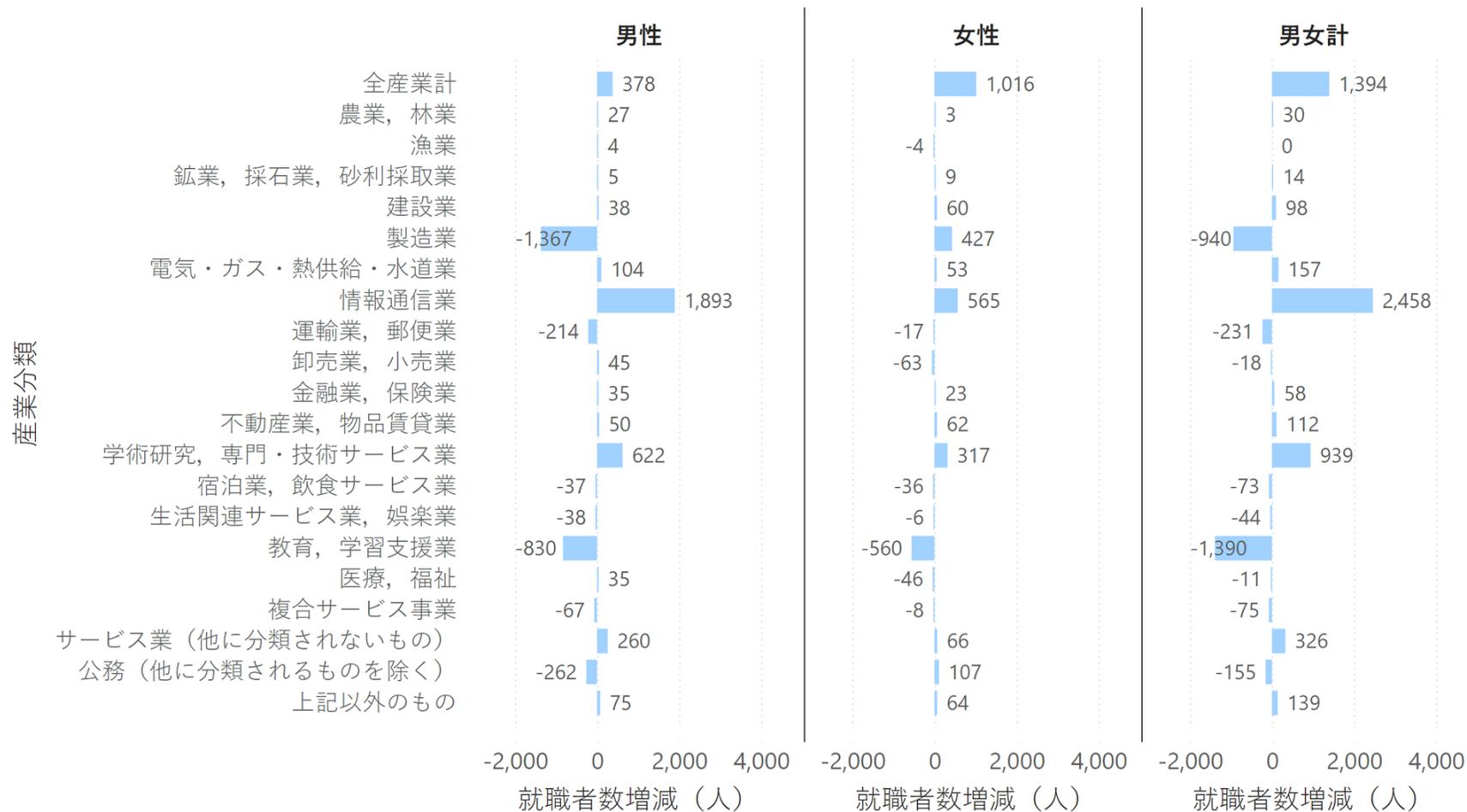
2023年度の就職者数は2003年度比で男性約0.7万人、女性約0.7万人、男女計で約1.4万人増加。
男性・女性とも「情報通信業」「学術研究、専門・技術サービス業」「製造業」への就職者数が特に増加している。



3. 修士課程修了者の修了時進路決定状況の推移

3.2. 産業別2023年度就職者数、2018年度比増減

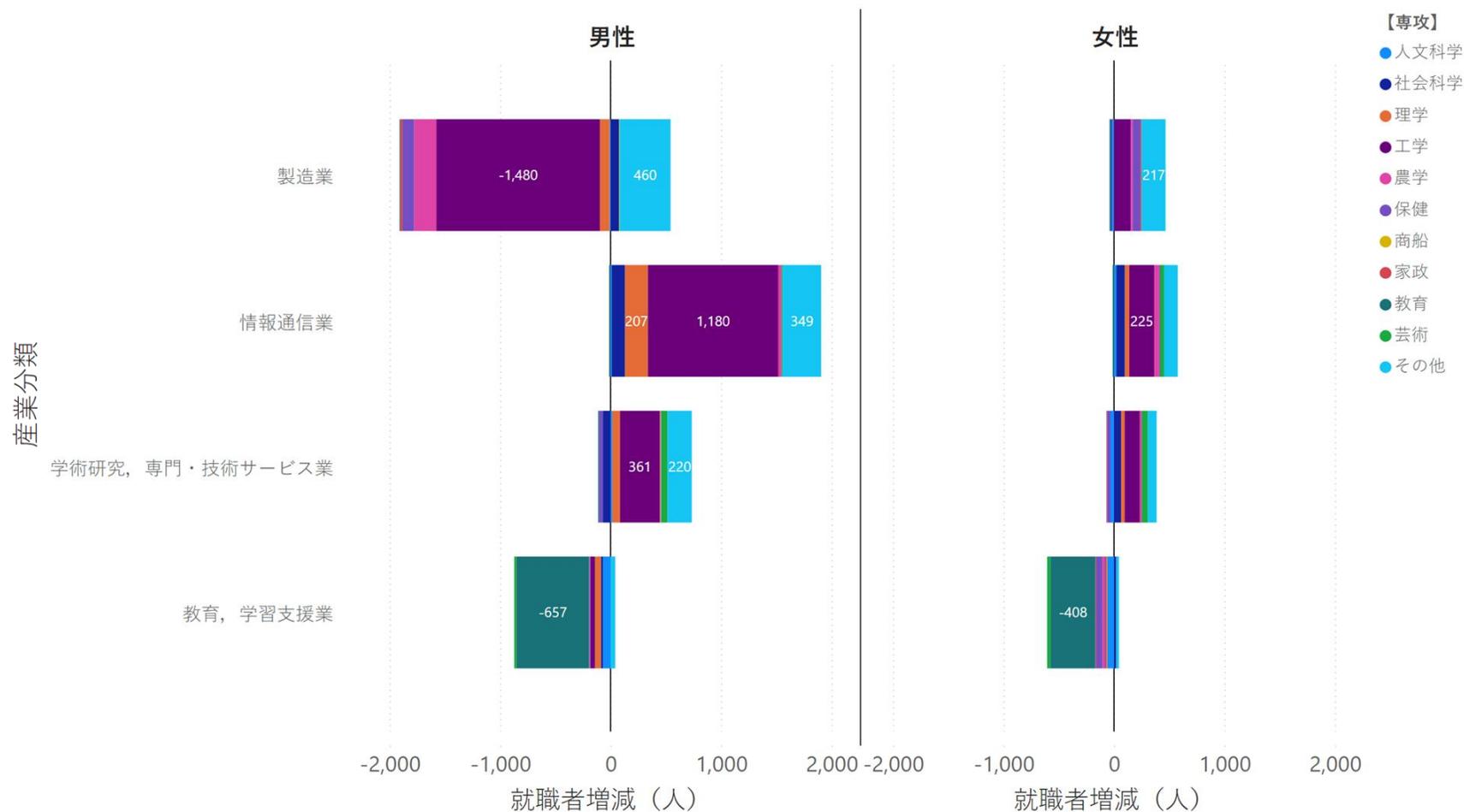
2023年度の就職者数は2018年度比で男性約0.04万人、女性約0.1万人、男女計で約0.1万人増加。2003年度比より増加幅は小さい。男性では「製造業」「教育、学習支援業」への就職者数が減少し、「情報通信業」への就職者数が増加。女性では「教育、学習支援業」への就職者数が減少し「情報通信業」「製造業」への就職者数が増加。



3. 修士課程修了者の修了時進路決定状況の推移

3.3. 産業別2023年度就職者数、2018年度比増減（専攻分野の内訳）

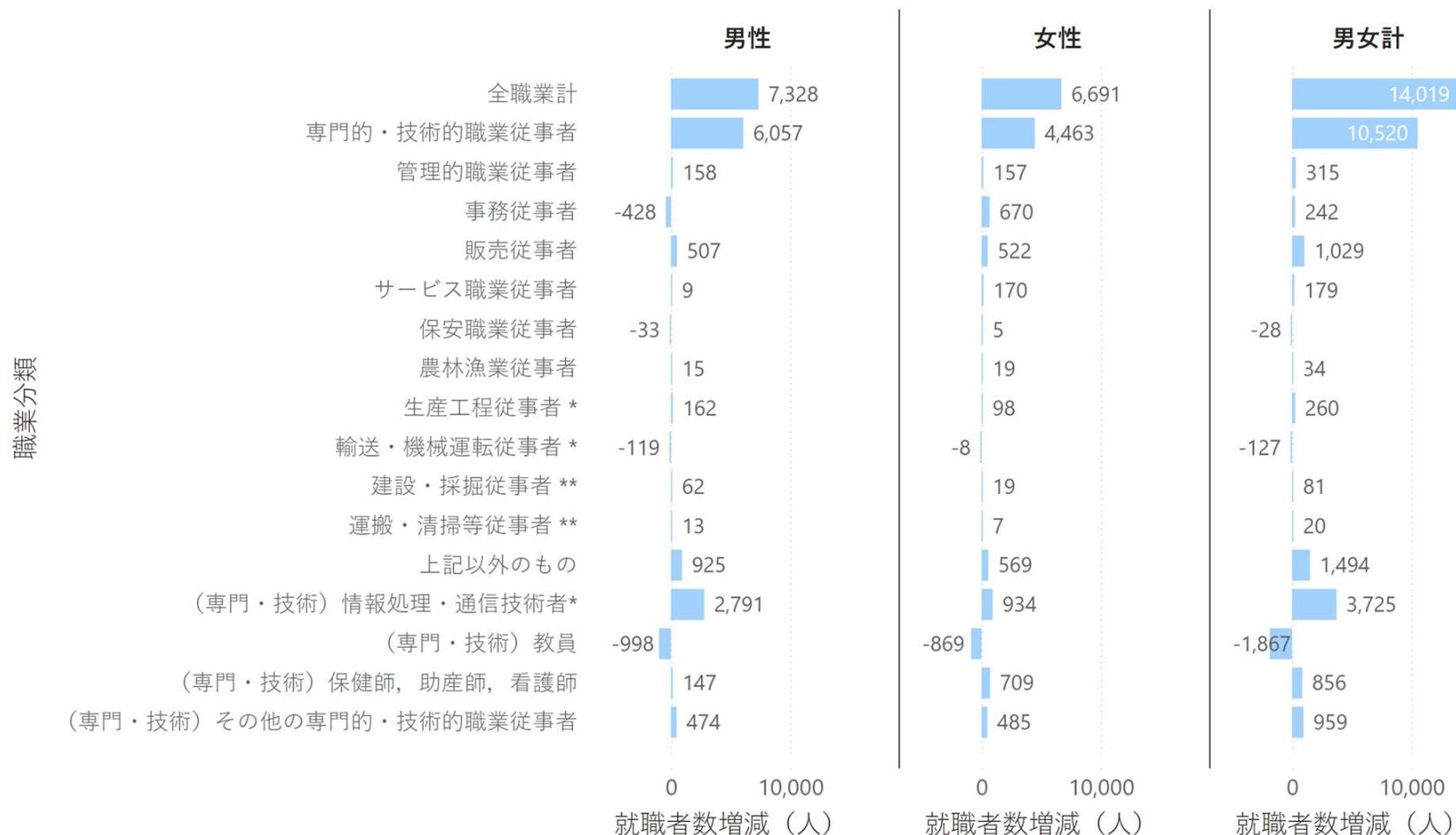
男性の就職者数は工学系学生の「製造業」の減少と「情報通信業」の増加が目立つ。
男性・女性とも教育系学生の「教育、学習支援業」への就職者数の減少が目立つ。



3. 修士課程修了者の修了時進路決定状況の推移

3.4. 職業別2023年度就職者数、2003年度比増減

男性・女性いずれも、「専門的・技術的職業従事者（「専門・技術」）」の就職者数が最も増加。その大部分は男性・女性いずれも「情報処理・通信技術者」によるもの。「専門・技術」のなかでも、男性・女性いずれも「教員」の就職者数が減少している。

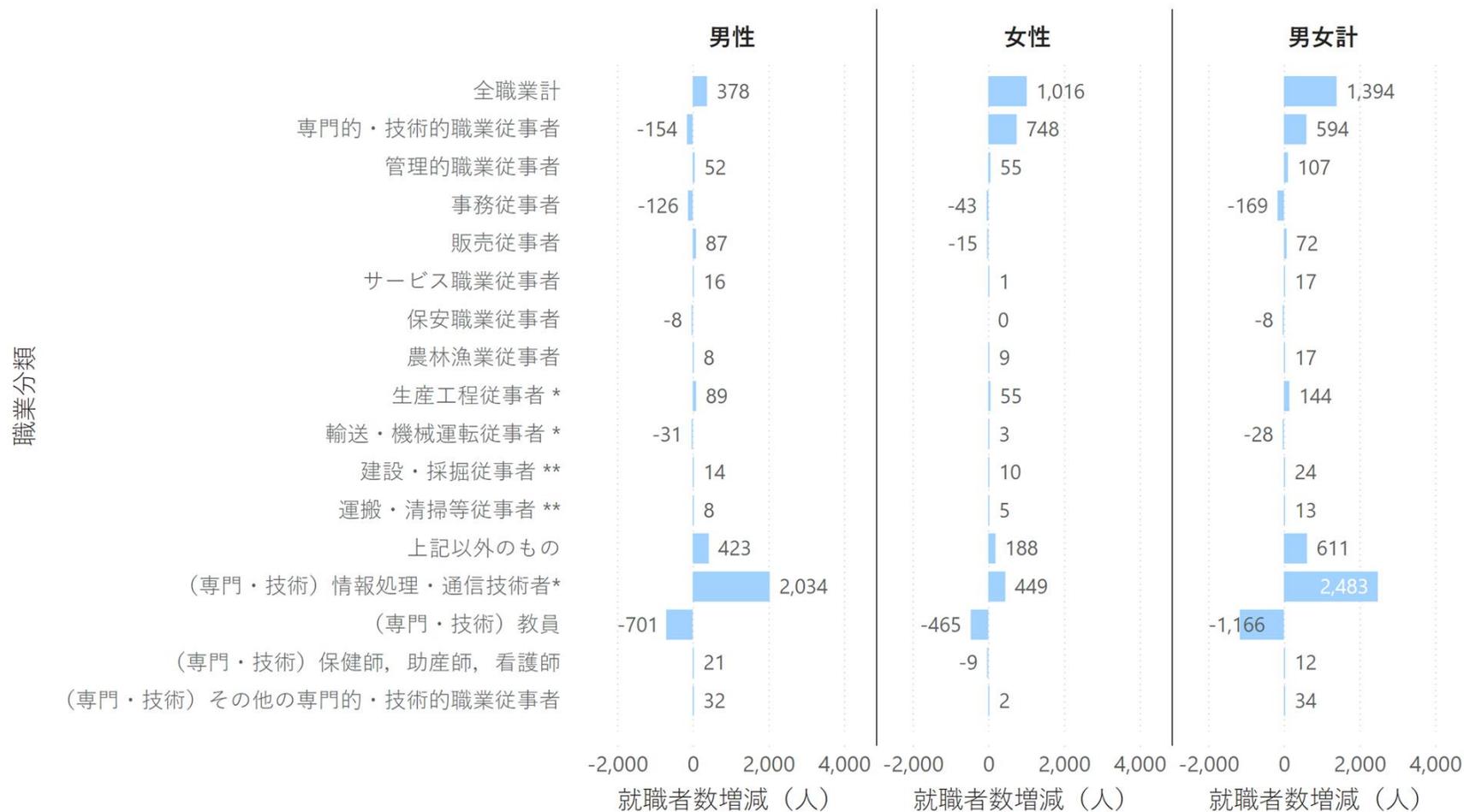


注1) *2023年度データの職業分類名称に統一、もしくは、2023年度データの職業分類に合わせて集計を変更 **2023年度データに突合できないため比較対象年度の就職者数を0とした増減を算出

3. 修士課程修了者の修了時進路決定状況の推移

3.5. 職業別2023年度就職者数、2018年度比増減

2018年度比の全職業計では大幅な増減はないが、特に男性においては「専門・技術」のうち「情報処理・通信技術者」の就職者数が増加。
男性・女性いずれも「専門・技術」のなかでも、「教員」の就職者数は減少している。

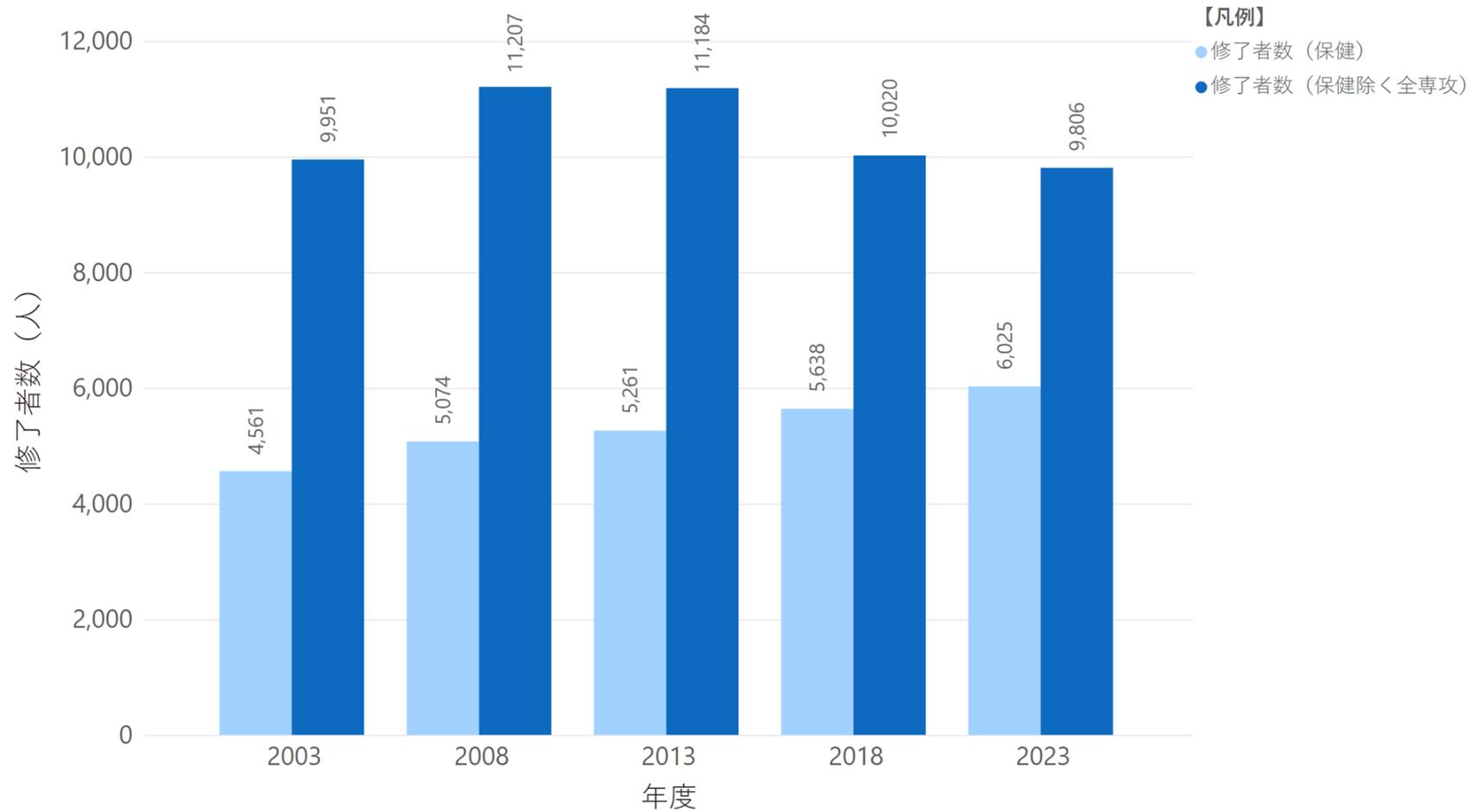


注1) *2023年度データの職業分類名称に統一、もしくは、2023年度データの職業分類に合わせて集計を変更 **2023年度データに突合できないため比較対象年度の就職者数を0とした増減を算出

4. 博士課程修了者の修了時進路決定状況の推移

4.1. 修了者数（専攻分野「保健」、及び、「保健除く全専攻」）

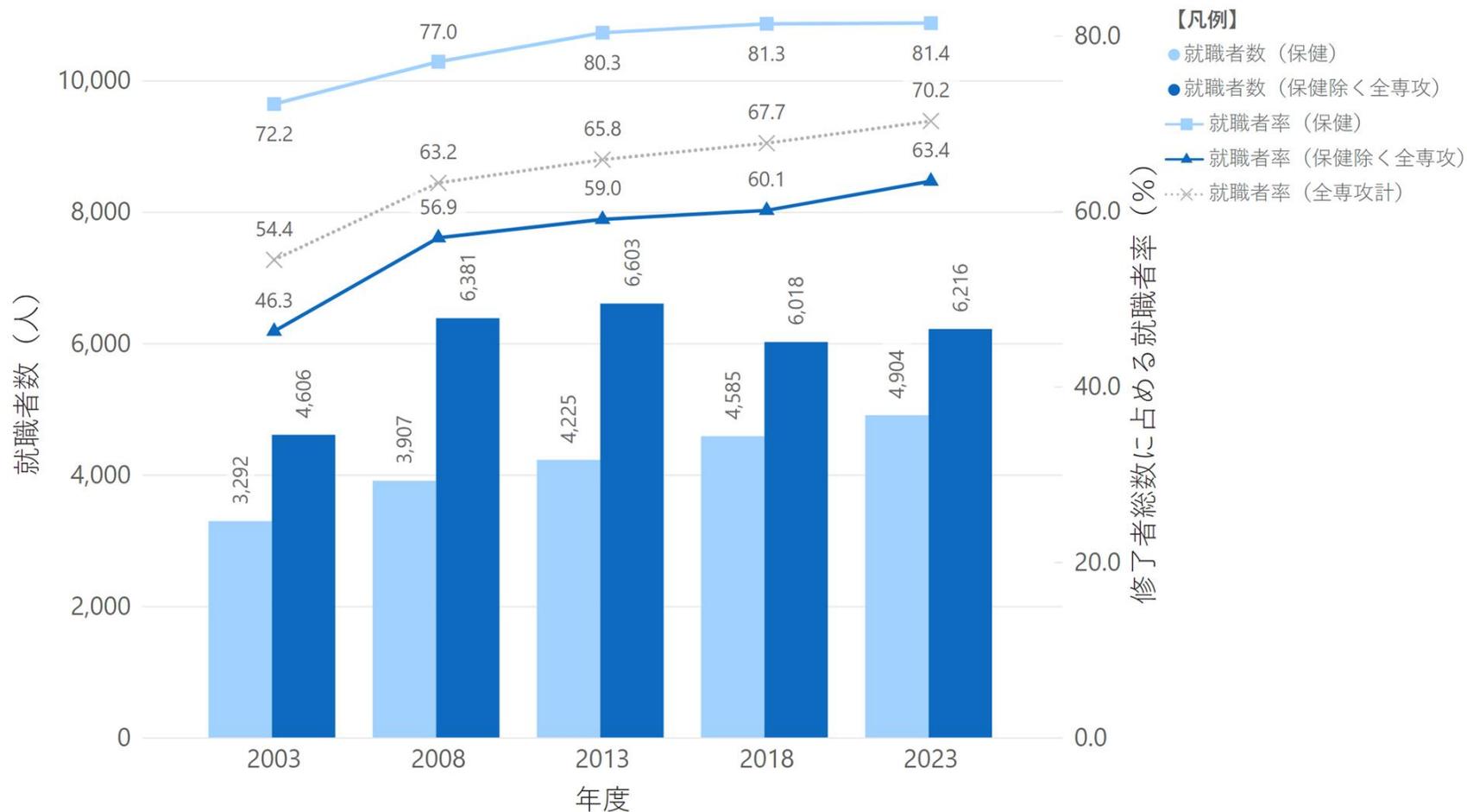
専攻分野「保健（医学、歯学、薬学、看護学等）」の博士課程修了者は増加傾向。2023年度の修了者数は2003年度比で1,464人増加。
「保健除く全専攻」では、2008年度から2013年度を境に修了者数が減少傾向。2023年度の修了者数は2003年度比ほぼ同数（145人減）。



4. 博士課程修了者の修了時進路決定状況の推移

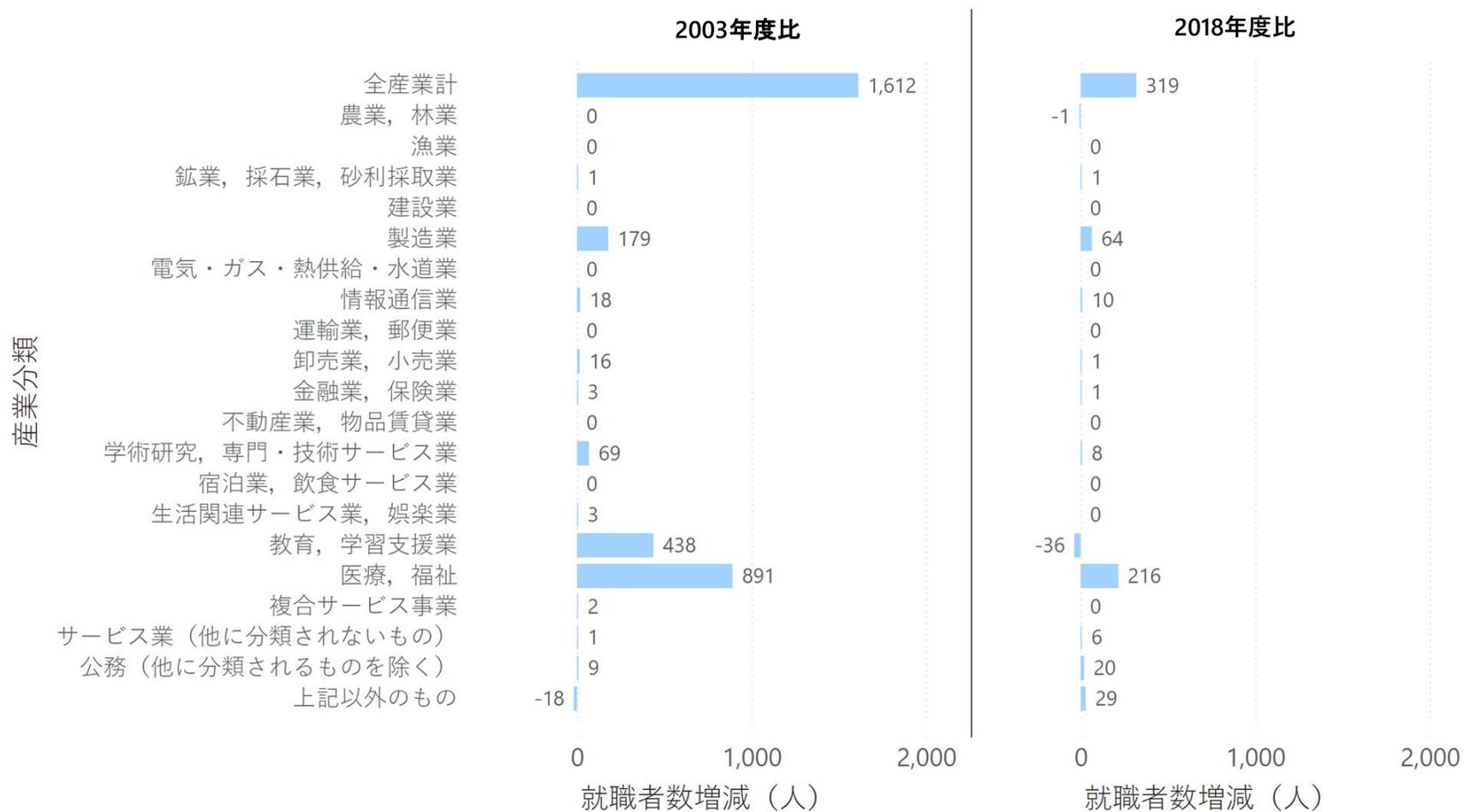
4.2. 就職者数・就職者率（専攻分野「保健」、及び、「保健除く全専攻」）

専攻分野「保健（医学、歯学、薬学、看護学等）」の就職者数は増加傾向。「保健除く全専攻」では2008年度ごろからほぼ横ばい。
「保健（医学、歯学、薬学、看護学等）」と「保健除く全専攻」の就職者率の差が大きい（2023年度：18.0pt.差）。



4.3. 産業別2023年度就職者数、2003年度及び2018年度比増（男女計、専攻分野「保健」）

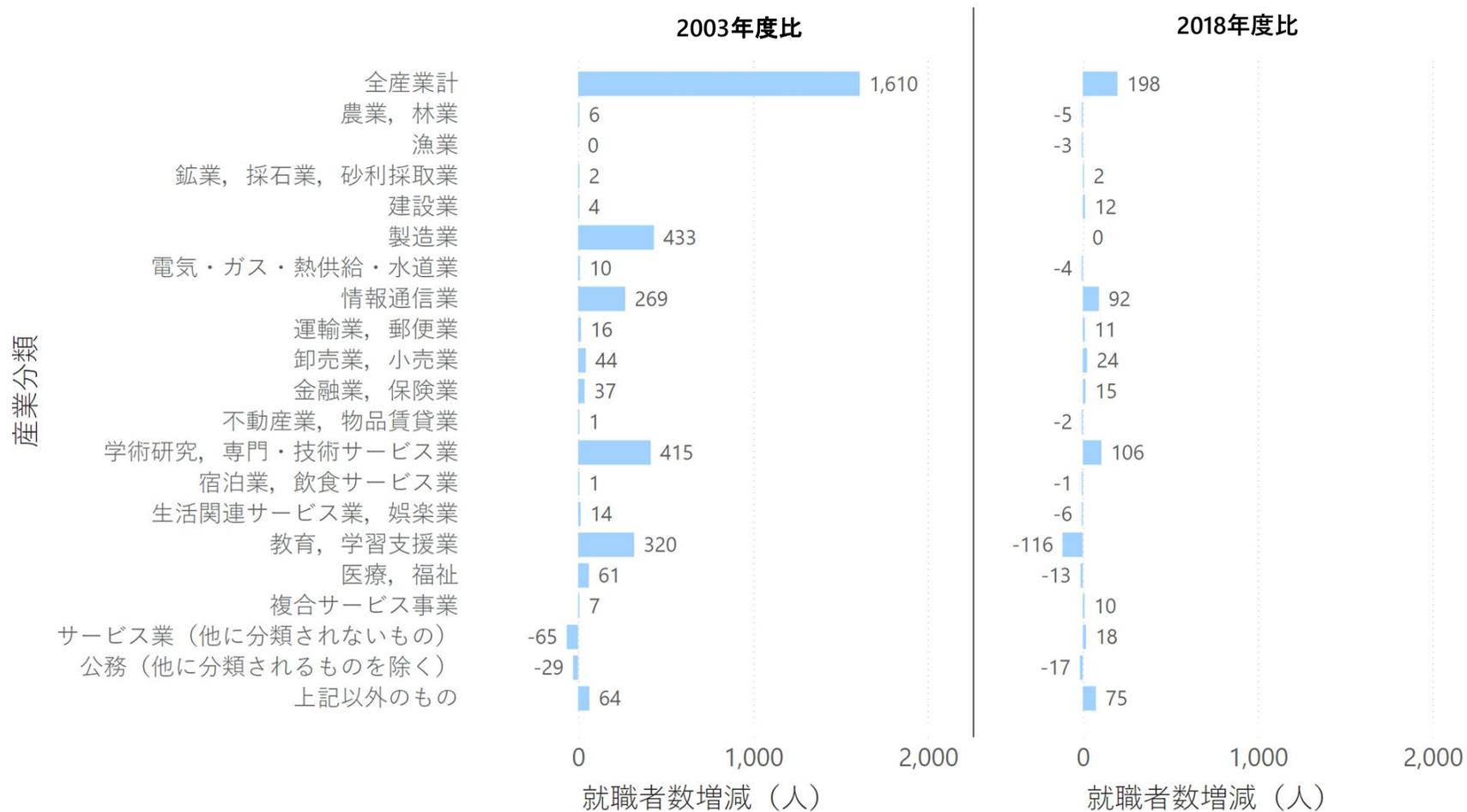
専攻分野「保健」の博士課程卒業者数増の大半は、「医療、福祉」への就職者数増によるもの。



4. 博士課程修了者の修了時進路決定状況の推移

4.4. 産業別2023年度就職者数、2003年度及び2018年度比増（男女計、専攻分野「保健除く全専攻」）

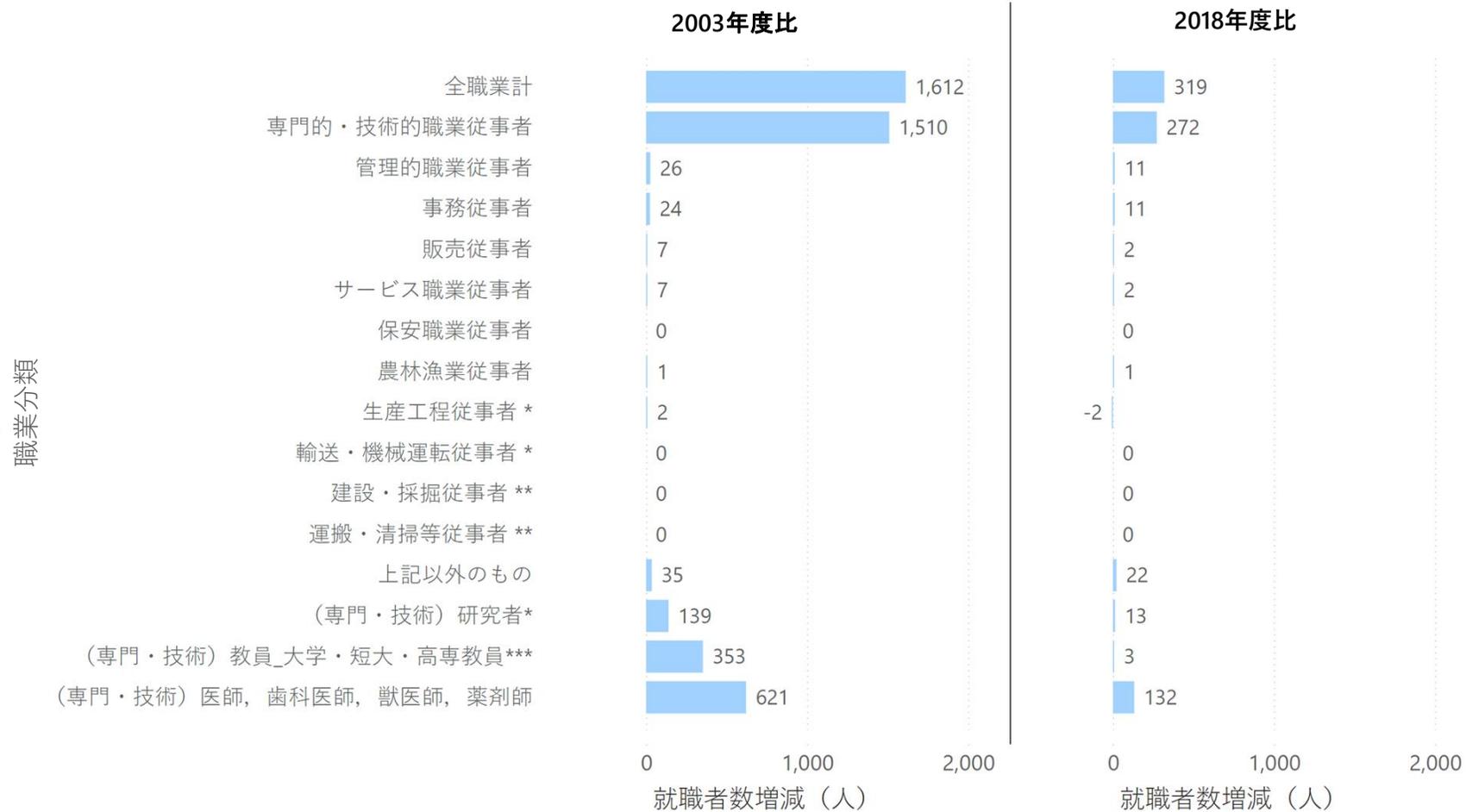
学部卒業生・修士課程修了者と異なり、2003年度比・2018年度比いずれを見ても「情報通信業」への就職者数は大きく増加していない。
 (2.2参照。学部男女計の2018年度比11,917人増のうち10,708人が「情報通信業」への就職者数増)



4.博士課程修了者の修了時進路決定状況の推移

4.5. 職業別2023年度就職者数、2003年度及び2018年度比増（男女計、専攻分野「保健」）

専攻分野「保健」の就職数増の大半は、「（専門・技術）医師、歯科医師、獣医師、薬剤師」への就職者数増によるもの。



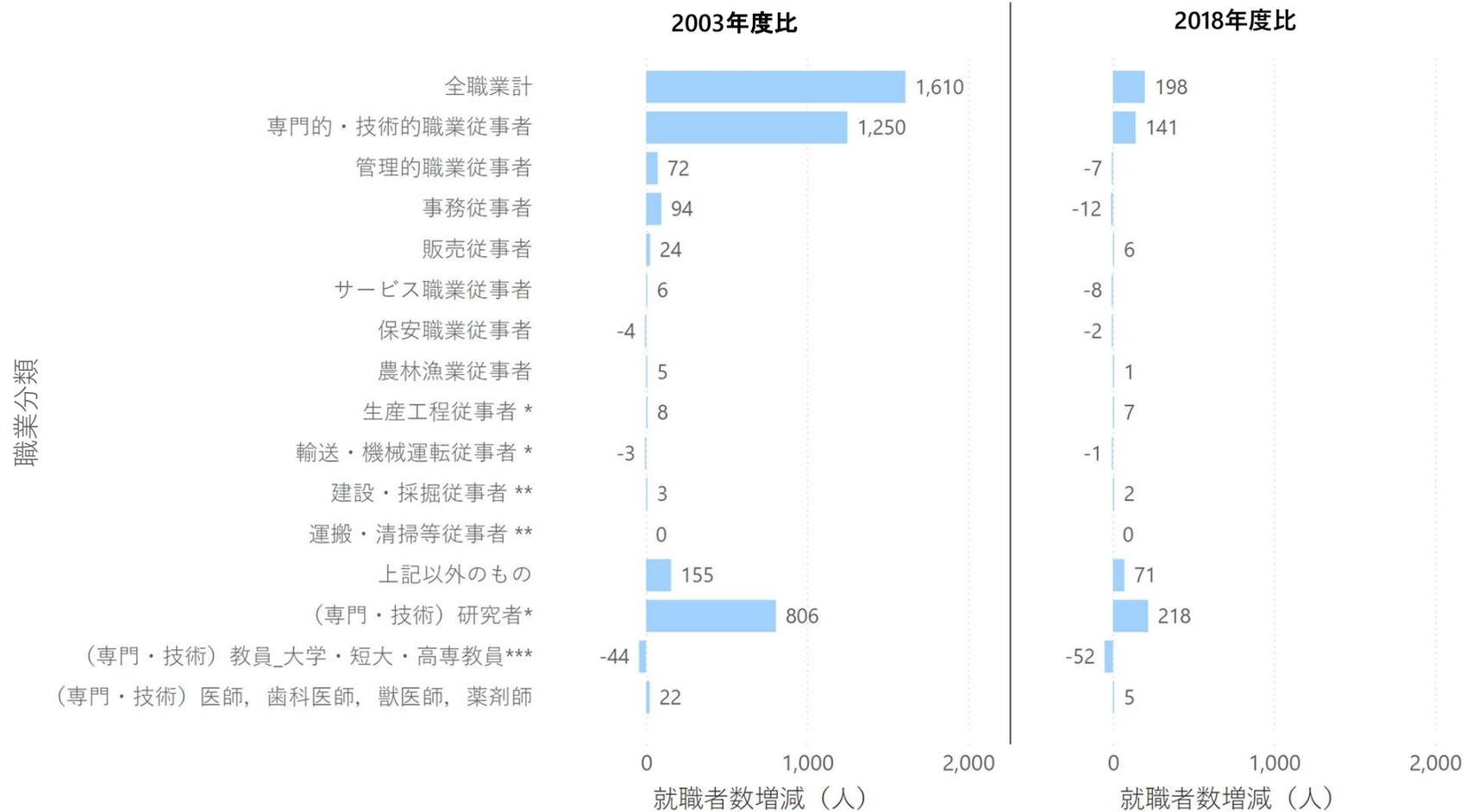
注1) *2023年度データの職業分類名称に統一、もしくは、2023年度データの職業分類に合わせて集計を変更 **2023年度データに突合できないため比較対象年度の就職者数を0とした増減を算出

注2) ***「（専門・技術）教員」のうち「高等専門学校教員」「短期大学教員」「大学教員」の就職者数の合計を算出

4.博士課程修了者の修了時進路決定状況の推移

4.6. 職業別2023年度就職者数、2003年度及び2018年度比増（男女計、専攻分野「保健除く全専攻」）

専攻分野「保健除く全専攻」の就職数増の大半は、「（専門・技術）研究者」（大学等教育機関の教員以外の、公共・民間等での研究職）への就職者数増によるもの。「（専門・技術）_大学・短大・高専教員」への就職者数は若干減少している。



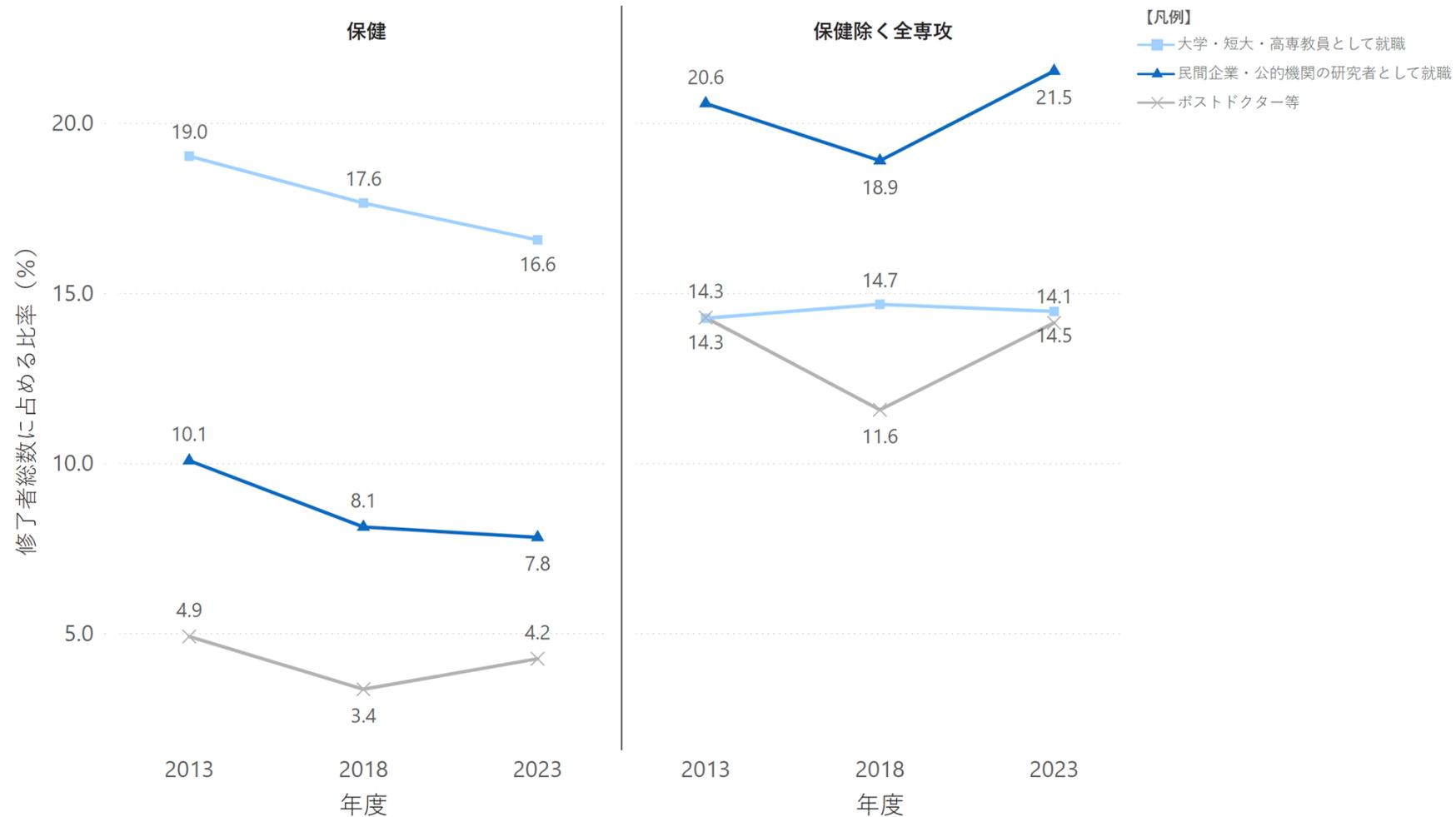
注1) *2023年度データの職業分類名称に統一、もしくは、2023年度データの職業分類に合わせて集計を変更 **2023年度データに突合できないため比較対象年度の就職者数を0とした増減を算出

注2) ***「（専門・技術）教員」のうち「高等学校教員」「短期大学教員」「大学教員」の就職者数の合計を算出

4. 博士課程修了者の修了時進路決定状況の推移

4.7. 博士卒業者に占める主要職業への就職者の比率、及び、ポストドクターの比率（男女計、専攻分野「保健除く全専攻」）

保健以外の専攻分野の博士課程修了者においては、民間企業・公的機関の研究者として就職する者が約2割。大学・短大・高専教員として就職する者やポストドクターとして研究活動に従事する者の比率よりも高く、主要なキャリアパスのひとつであることが分かる。ただし比率はこの10年ほとんど増減していない。



注1) 学校基本調査で博士卒業後にポストドクターになる者の人数が公表されたのは2012（平成24）年度以降。したがって上図では2013・2018・2023年度の推移を掲載している。

注2) 大学・短大・高専教員として就職した者、または、公的機関の研究者として就職した者の一部にはポストドクターが含まれる可能性がある（学校基本調査の定義では、民間企業の研究者の中にはポストドクターはいない）。

